

3 . 流域の社会状況

3 - 1 人 口

天塩川の流域は上川、留萌、稚内の3支庁にわたり、名寄市、士別市をはじめとする3市10町1村を有し、その人口は94,028人（平成12年10月国勢調査結果速報）である。また、図-11に示すとおり、天塩川流域の人口は、昭和35年をピークに減少傾向を示している。一方、世帯数は、近年、若干増加傾向を示していることから、流域全体として核家族化傾向がみられる。

表 - 6 天塩川流域の人口・世帯等

区 分	面積 (km ²)	平成12年度人口 (人)	平成12年度世帯数 (世帯)	人口密度 (人/km ²)
流 域 内	5590.00	94,028	36,536	16.8
上 流 域	1475.32	33,856	12,688	22.9
中 流 域	2127.21	45,112	17,790	21.2
下 流 域	2043.69	15,060	6,058	7.4

出典：H12 国勢調査報告書
北海道統計書（H13）

上流域～朝日町、剣淵町、和寒町、士別市
中流域～下川町、風連町、名寄市、美深町、音威子府村
下流域～中川町、豊富町、幌延町、天塩町
稚内市は集計から除く

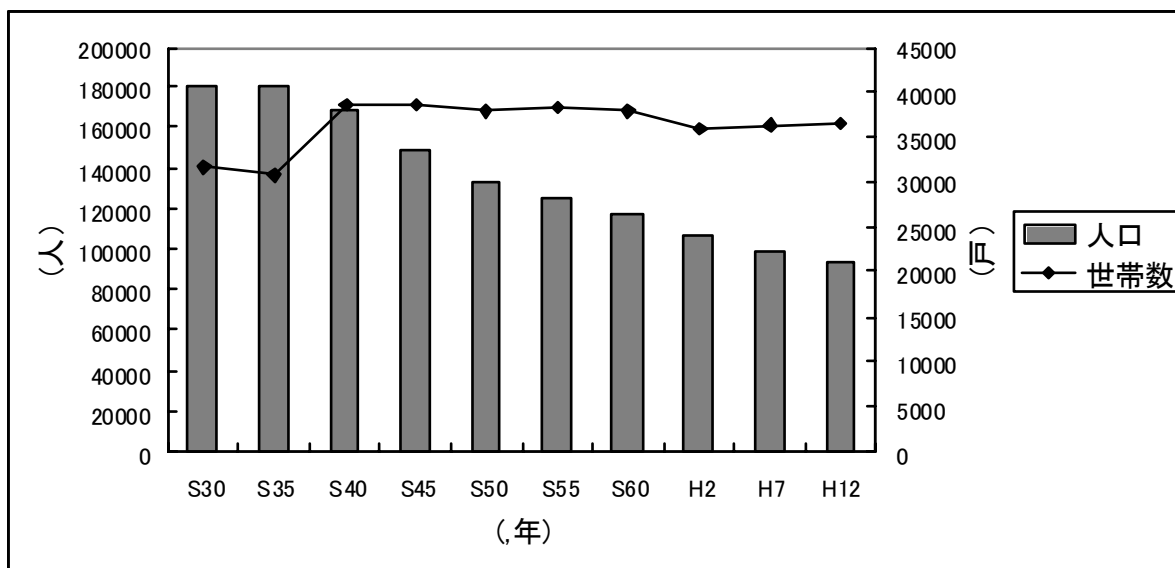


図 - 11 天塩川流域の人口・世帯の推移

3 - 2 土地利用

天塩川流域は上川、留萌、宗谷の3支庁にわたり3市10町1村で構成され、流域面積は約5,590km²である。

土地利用の現況(H11)を地目別にみると、山林が北見山地、天塩山地の樹林を中心に、約70%を占め最も大きい。次いで平野部を中心に広がる田・畑が大きく、水田で約4%、畑地で約10%となっている。宅地は、名寄市街をはじめとして流域13市町村(稚内市は除く)の市街地に点在し、全面積の約0.6%である。

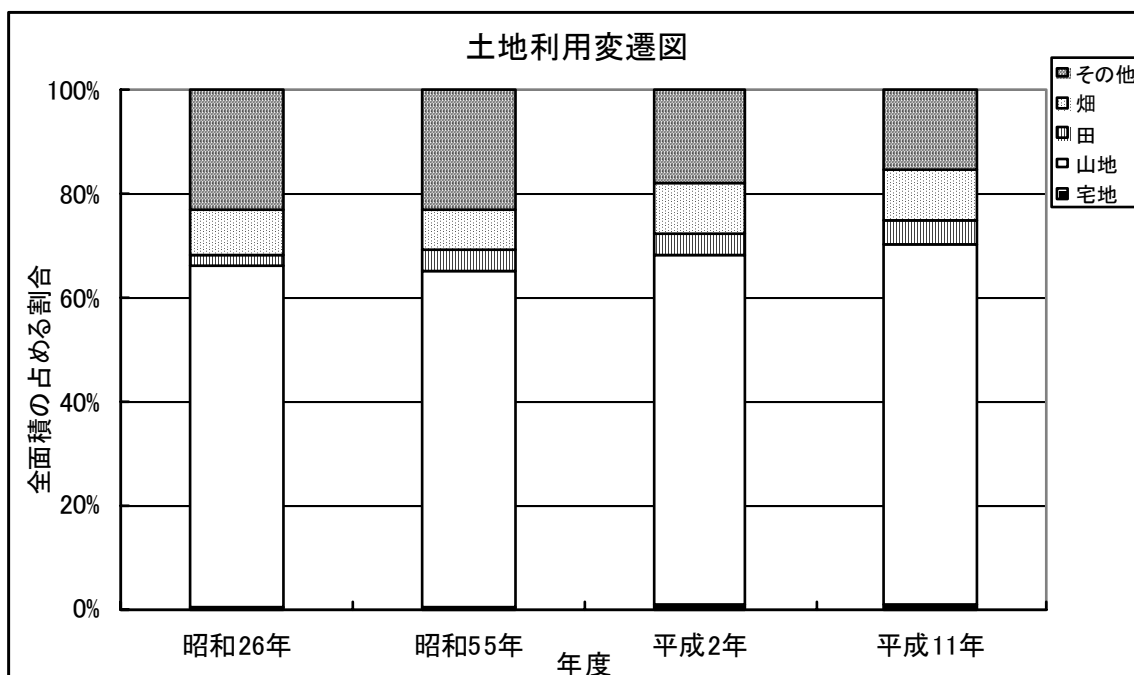
その他のうち原野、牧場、雑種地が約15.2%を占めている。

表 - 7 天塩川流域における土地利用の推移

(単位: km²)

年度	宅地	山林	田	畑	その他
昭和26年	15.00 (0.3%)	3723.34 (65.6%)	114.28 (2.0%)	512.76 (9.0%)	1,306.31 (23.0%)
昭和55年	23.89 (0.4%)	3654.69 (64.6%)	228.27 (4.0%)	459.02 (8.1%)	1,295.00 (22.9%)
平成2年	33.16 (0.6%)	3800.67 (67.3%)	239.45 (4.2%)	555.36 (9.8%)	1,017.73 (18.0%)
平成11年	36.68 (0.6%)	3935.50 (69.7%)	238.45 (4.2%)	579.02 (10.3%)	856.57 (15.2%)

資料: 北海道統計書
※稚内市は除く

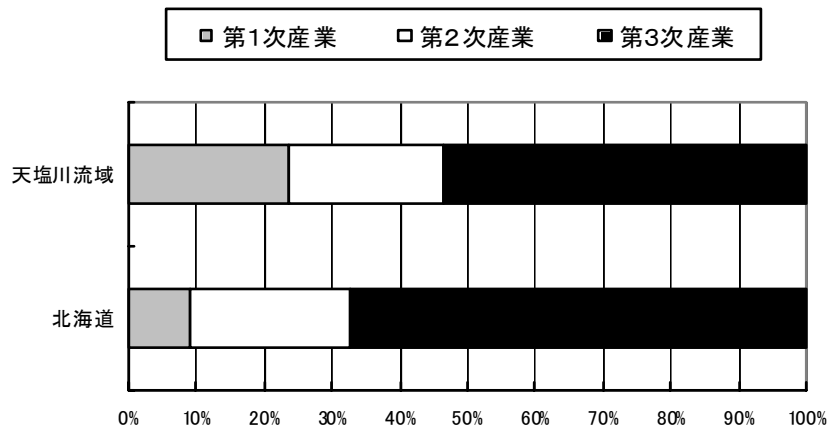


※稚内市は除く

3 - 3 産業経済

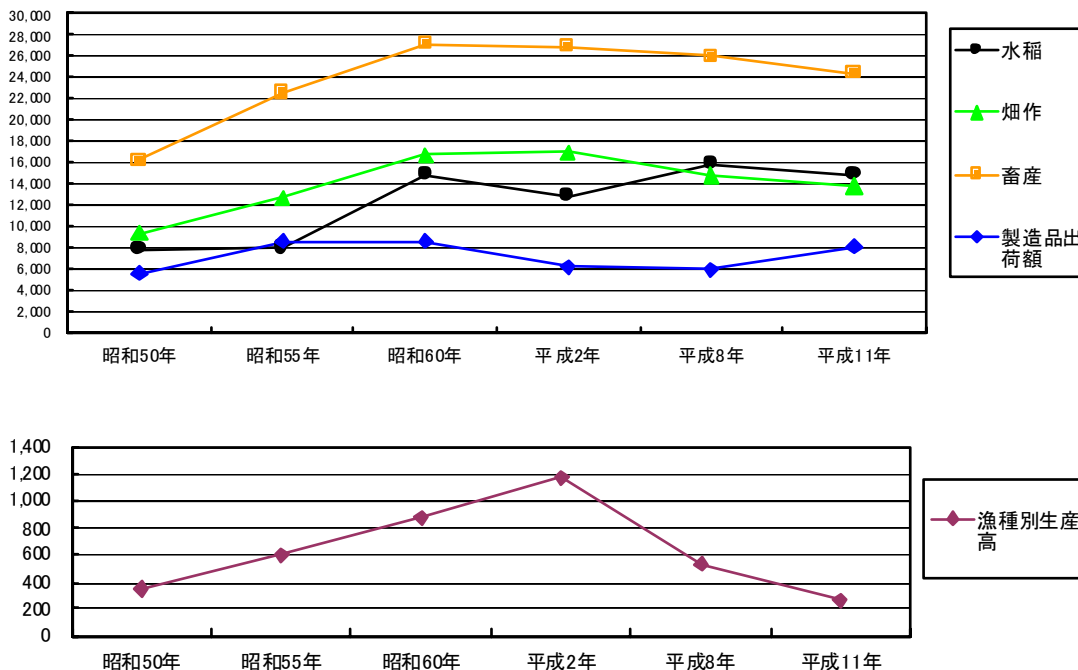
上流部は豊富な森林資源に恵まれており林業が盛んである。また、名寄盆地を中心に大規模な稲作及び畑作が行われている。製造業は、地元の木材や農産物を活用した製紙、農産物加工業が盛んである。中流部は畑作が中心であり麦類や雑穀・豆類及び甜菜を中心とした工芸農作物が多く生産されている。また、美深町は稲作の北限地帯である。他には、広大な土地を利用した酪農が盛んであり、河川敷にも多数の採草放牧地が存在する。下流部は中流部と同様に畑作と酪農が盛んである。河口では漁業が盛んであり、シジミ漁やサケ漁が行われており天塩町の鏡沼では毎年「鏡沼しじまつり」が開催され、夏の名物となっている。

図-12 産業別就業者数の構成比

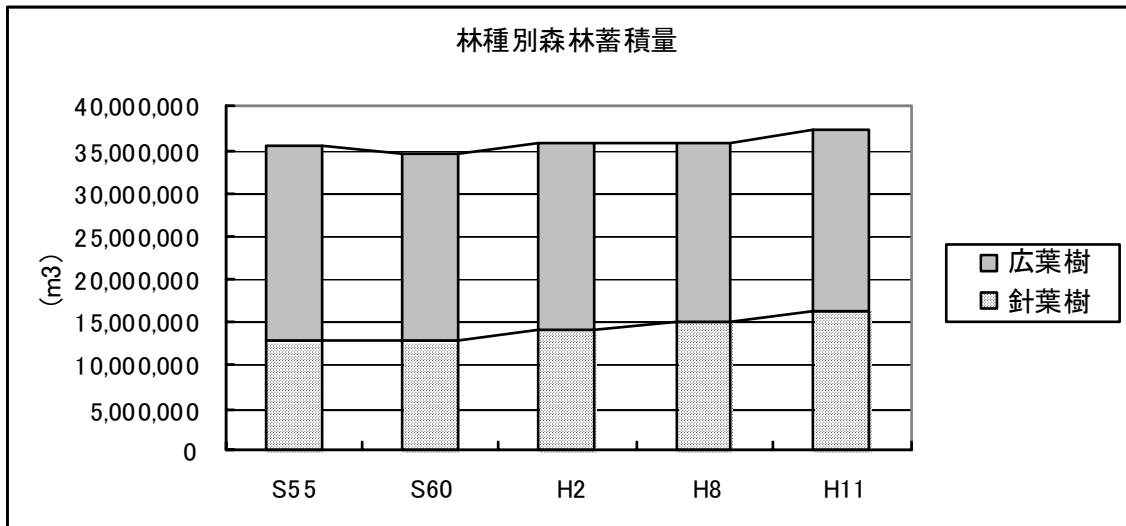


資料：国勢調査結果報告書（H7）
稚内市は除く

(単位：百万円) 図-13-(1) 天塩流域の生産額の経年変化



資料：北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編）
北海道工業統計、北海道市町村勢要覧
北海道水産現勢 稚内市は除く



蓄積とは、立木の幹の部分の体積である。

図 - 1 3 - (2) 天塩川流域の森林蓄積量の推移

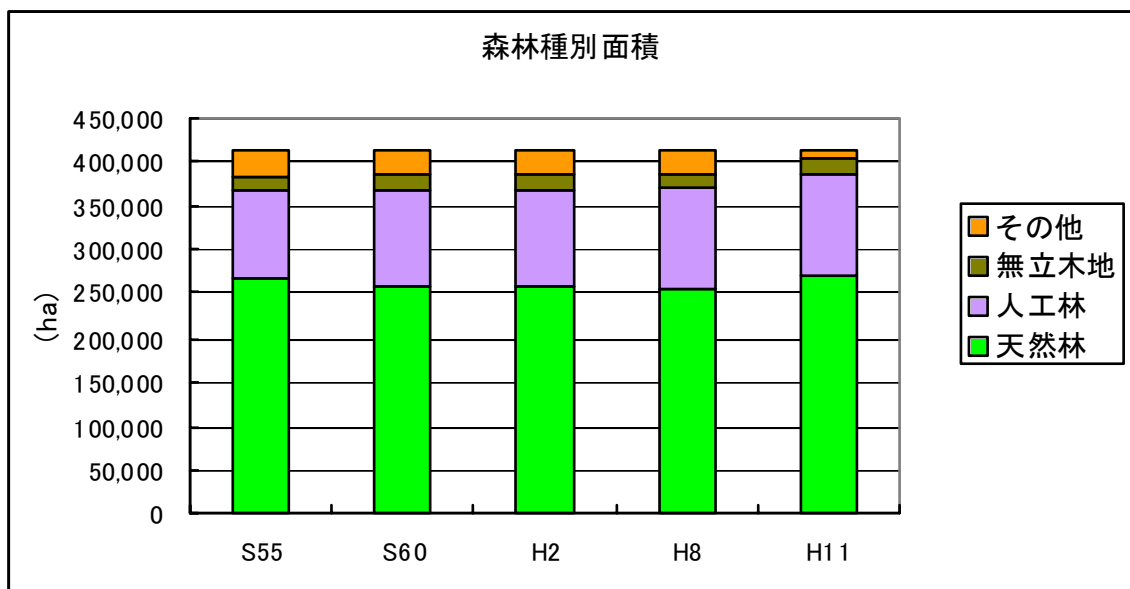


図 - 1 3 - (3) 天塩川流域の森林面積の推移

資料：北海道林業統計(北海道水産林務部)

天塩川流域は林野率が約 70% (総土地面積に占める森林面積の割合) である。また、天然林である広葉樹を主体にした森林蓄積量も増加傾向にあることから、この豊かな森林資源を背景とした林業が盛んである。

3 - 4 交 通

(1) 現 況

天塩川流域は広大な地域に生産活動と結び付いた市街地が天塩川沿いに存在するという地理的な特性がある。交通の骨格を成す国道 40 号と JR 宗谷本線は、流域の大部分で天塩川と併走している。流域内の自動車保有率 639 台 / 千人 (北海道自動車統計 - H9) と全道平均 590 台 / 千人を若干上回り、自動車への依存度が極めて高く、道路は最も重要な役割を担っている。

また、道路ネットワークは国道 40 号が現在の天塩川流域の最も重要な道路となっている。道央札幌圏からは、主に道央自動車道から旭川を経由して、同地域へアクセスすることになるが、北海道縦貫自動車道が稚内まで予定路線として決定されており、その整備により広域的な自動車アクセス条件は飛躍的に高まると予想されている。

鉄道では、天塩川流域を JR 宗谷本線が縦貫しており、旭川 - 稚内間を結んでいる。

航空便は、稚内、旭川、札幌の空港より、観光客のほか、郵便物や農・海産物の輸送等に利用されている。

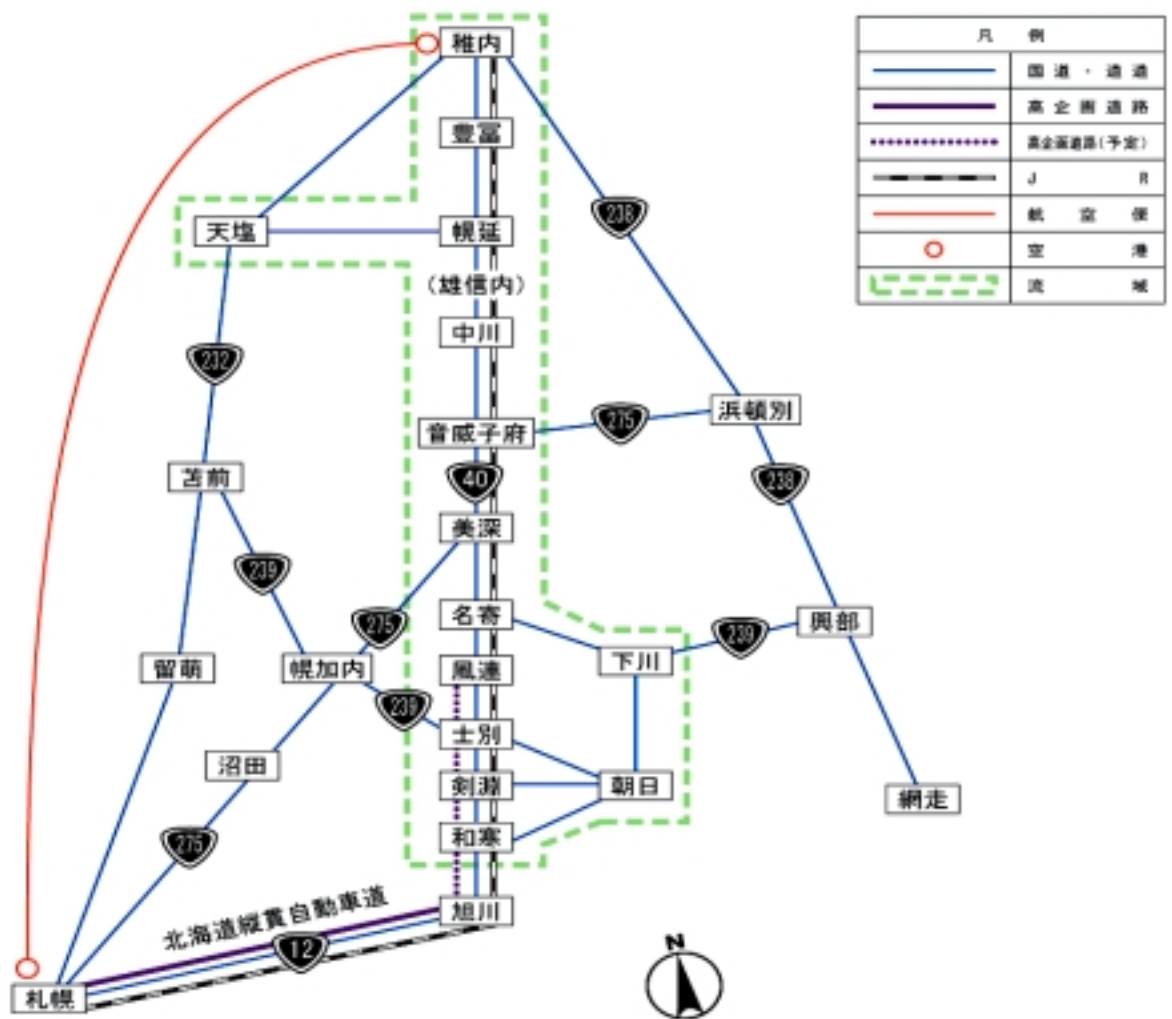


図 - 14 天塩川流域における交通ネットワーク図

(2) 舟運の過去と現在

天塩川流域の開拓は、河口の天塩から上流へ向かって進められた。開拓初期には道路整備が入植に追いつかず、人や物資の移動には舟運が中心であった。

明治31年に上流の土別に屯田兵村が設置されてからは、村まで資材や食料を川舟で運送することを専門とする天塩川合同運漕会社も営業を始めた。

明治43年頃の記録によると、名寄から天塩河口の間に20ヶ所の船着場や多くの渡船場があった。各地の船着場一体には郵便局、巡査駐在所などの公共機関をはじめ、雑貨店、旅館、飲食店などが並び、賑わいを見せていたが、時代とともに渡船場は橋梁に変わっていき、舟運は昭和32年度までの運航であった。

現在は、産業としての舟運はないが、近年、川を利用したアウトドア・スポーツ、特にカヌーが盛んに行われるようになり、流域市町村各地にカヌークラブが誕生し、天塩川全域でカヌー利用やイベントが行われている。



天塩国上川郡上名寄村天塩川上流渡船場 明治43年

(北海道大学北方資料室蔵) 出典：天塩川治水史



北海道天塩港木材積取船入港之景(北海道立図書館蔵)

出典：天塩川治水史